

# 数学 (Ⅲ) 九州大学 経済 (経済工)、理、工、農、医 (保健—看護を除く全学科) 歯、薬、芸術工

## <全体分析>

試験時間 150 分

解答問題数

5 題

解答形式  
全問記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

小問のない問題がなくなり複素数平面から 2 題出題された

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

確率が出題されなかった。論理的考察を要する問題が多くみられた。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	空間図形	数学 B	座標空間における四面体の内接球の中心、平面と球の交わりの円の最大面積	標準
[2]	複素数平面	数学 III	複素数平面上における 2 次方程式の虚数解の図形に関する条件	標準
[3]	微積分総合	数学 III	不等式をみたす点 $(x, y)$ の存在領域と回転体の体積	標準
[4]	複素数平面	数学 III	複素数平面上の 2 点を結ぶ線分上の点が「平均値の性質をもつ」条件と論証	やや難
[5]	整数	数学 A	2 項係数 ${}_nC_k > n$ の証明と素数 $p$ に対して ${}_nC_k = p$ となる $n$ と $k$ を求める	やや難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

標準的な問題を中心にしっかりと演習を積み重ね、計算力をしっかり高めていきたい。さらに、ややレベルの高い発展問題にもチャレンジし、論証問題や融合問題などいろいろな出題に対応できる力 (小問のない形式も含めて) を養っておきたい。